

様式第5号（第2条関係）

平成22年4月23日

大崎市議会議長 青沼智雄 様

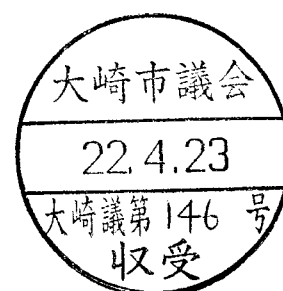
会派等名 グローバルネット

代表者名 氏家 善男



平成21年度政務調査費収支報告について

大崎市議会政務調査費の交付に関する条例第8条の規定に基づき、別紙のとおり政務調査費収支報告書を提出します。



(別紙)

平成21年度政務調査費収支報告書

会派等名 グローバルネット

1 収入

政務調査費 560,000 円

2 支出

科 目	金 額(円)	備 考
研 究 研 修 費		
調 査 旅 費	560,000	三重県伊勢市, 鳥羽市, 亀山市 神奈川県横須賀市, 埼玉県川越 市, 株ひびき工場
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
広 報 費		
公 聴 費		
人 件 費		
事 務 所 費		
そ の 他 の 経 費		
合 計	560,000	

(注)備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

3 残額

0 円

様式第2号（第4条関係）

出 納 簿

（グローバルネット）

月日	摘要	収入金額	支出金額	差引残高
4月22日	平成21年度交付金	560,000		560,000
6月2日 ～4日	調査旅費		515,187	44,813
10月26日 ～27日	調査旅費		44,813	0
	合 計	560,000	560,000	0

政務調査活動概要報告書

会派等名 グローバルネット

1 調査研修事業

(1) 視察・研修日

平成21年6月2日から平成21年6月4日まで

(2) 視察・研修地

三重県伊勢市、三重県鳥羽市、三重県亀山市 シャープ亀山工場

(3) 視察・研修者

青沼 智雄・氏家 善男・宮下 佳民・中村 一彦・中鉢 和三郎・
大友 文司・木村 和彦

(4) 視察・研修内容

伊勢市観光振興計画と市民との協働によるまちづくりについて

伊勢市は神宮を抜きにしては観光を語ることができず、神宮中心に行政施策が進んでいて、そこから離れて新たな観光の創出は考えられない。しかし、観光客のニーズは多岐に及んでおり、歴史の重みと、今観光地を訪れる人が求めているバリアフリー、あるいは若者たちが観光地に求めているもの、これらの課題を十分に満たすための整備などは今以上の努力が求められると感じた。

市民との協働によるまちづくりについては、平成17年11月に4市町が合併したので、住民自治がもっとも大切であると認識し、「地区未来会議」を創設し地域課題について行政に地域の意見、提言をする役割を担うことになっている。

鳥羽市観光基本計画について

鳥羽市は2015年までを事業年度とする「鳥羽市観光基本計画」を策定した。鳥羽市は観光業と水産業とでこれまで成り立ってきたが、最近では観光のピーク時と比較すると、落ち込みが激しくジリ貧状態でその対応に苦慮しているとのことであった。近距離に大人口を抱える近畿圏がありながら現状として苦戦しているが、大崎市の観光はその鳥羽市の条件よりさらに厳しい環境におかれているので、ある面善戦しているとも見られる。

しかし、大崎市の現状の把握をしっかりとし、観光事業当事者の更なる頑張り取り組み、大崎市のバックアップの仕方等、鳥羽市の観光基本計画を参考にしていける必要があると感じた。

シャープ亀山工場視察における、経済不況の中での企業戦略と液晶関連事業の展開について

シャープ亀山工場は世界初の液晶テレビ一貫生産を実現した。生産にあたり、世界最大級の太陽光発電システム、日本最大級の燃料電池、コ・ジェネレーションシステムなどの分散型電源によって、工場全体の電力総使用量の約3分の1を自家発電でまかない、工場の二酸化炭素排出量を40%削減した。さらに、工場

の工程排水のリサイクル率は100%を達成している。このような環境に与える影響を最小限に抑えた模範となる「スーパーグリーンファクトリー」を目指すことが、経済不況の中で勝ち残るための企業戦略である、とのことだった。

また、次の企業戦略と液晶関連事業の展開については、国の環境モデル都市に選ばれた堺市が取り組む「クールシティ堺」に「グリーンフロント堺」が「世界最先端環境工場」として貢献していくとのことでした。

2 調査研修事業

(1) 視察・研修日

平成21年10月26日から平成21年10月27日まで

(2) 視察・研修地

神奈川県横須賀市、埼玉県川越市、株式会社 ひびき吉田工場

(3) 視察・研修者

青沼 智雄・氏家 善男・宮下 佳民・中村 一彦・中鉢 和三郎・
大友 文司・木村 和彦

(4) 視察・研修内容

YRP（横須賀リサーチパーク）事業について

YRP（横須賀リサーチパーク）事業とは、神奈川県横須賀市光の丘に建設された、電波情報通信技術に特化した一大研究開発拠点で、62社もの企業等が進出している。次世代のコミュニケーションツールの開発を行っていて、多くの電波通信技術が結集し、数々の実証実験を支える「テストベット」を持っていて、多くの学会なども開催される。

「ユビキタス特区」の施設を実際に案内され、将来の新通信技術開発の一端を紹介された。さらに、電波通信技術の開発は、まさに日進月歩であり、世界に遅れない国際競争力強化のための技術開発の難しさも説明された。最先端技術に触れることができ、大変有意義な視察であった。

農商工連携の取り組みについて

川越市における地産地消は、特産のサツマイモが使用されている。市内の4Hクラブの皆さんが休耕している畑を利用し、農家の指導を受けながら生産に取り組んだ。加工用2種、生食用2種を作り、良好な生育と収穫であった。収穫されたサツマイモは地産地消フェアで販売され、予想以上の反響を得、評判は上々。加工用は加工業者が全量を引き取り土産品として加工され、販売されている。

行政は一切支援しなかったそうだが、将来、観光課と農政課の垣根を越えた連携が、地産地消の推進には不可欠であり、生産から販売までのルートの確保の支援が求められると感じた。

農商工連携の事業展開について（工場視察）

株式会社「ひびき」は食品加工・卸業として埼玉県内屈指の「やきとりメーカー」である。平成 19 年度埼玉県ベンチャー企業優良製品コンテスト入選・平成 20 年度モンドセレクション最高金賞受賞「秘伝のみそだれ」など、数々の賞を受賞していて、現在年商は5億4500万円(08年6月期)である。

できるだけ地場産の食材を使用するように心がけ、原材料仕入れから製造・販売まで一貫した生産加工流通履歴管理を行っている。生産・製造に携わる人の雇用は、100%地元の人を採用している。今後とも、原材料にこだわり、地産地消とトレーサビリティを重視し、消費者に満足される商品の開発と供給に努めると語っていた。